

(事後C)

評価委員会総合評価

研究課題名：c4 放射収支の監視システムの高度化と気候変動要因解明に関する研究
評価委員

委員長：隈健一

委員：高薮出、大野木和敏、安田珠幾、小泉耕、堤之智、青梨和正、
佐々木秀孝、鈴木修、橋本徹夫、山本哲也、石井雅男、丸本大介

評価年月日：平成 30 年 11 月 5 日

1. 総合評価

- ☐ 非常に優れた研究であった。
- ☐ 優れた研究であった。
- ☒ 研究を実施した意義はあった。
- ☐ 失敗であった。

2. 総合所見

本研究は、気候変動のメカニズム解明を目的として、分光日射計やスカイラジオメータ等の精密な観測装置の開発や衛星データのアルゴリズムの開発を行うなど、幅広い範囲で有益な研究である。

本研究により、多くの観測機器を維持し、観測を継続させたことは意義があった。また、スカイラジオメータ観測の業務化に貢献する等、気象庁業務に役立つ成果が得られたことは評価できる。論文発表についても積極的に行っていることは評価できる。

一方、個々の研究成果がどのように有機的につながって総合的な放射収支の成果に結びつくのかというビジョンが見えない。副課題 1 については、個々の研究成果は優れているもののバラバラ感があり、副課題 2 については、当初の目標が達成されたとは言いがたい。

以上のことから、本研究は、ある程度適切な目標設定と研究体制のもとに実施され、一定の成果が得られた研究であったと評価する。

なお、今後の次期課題の実施にあたり、以下の指摘事項を踏まえて、取り組んで欲しい。

- ・気象庁として取り組むべき研究の目的を明確にした上で、外部資金を上手く活用して、今後の研究を推進していただきたい。
- ・次期中期研究計画では、気象研究所における放射観測について、これまでの観測・解析・成果を踏まえつつ、学术界（放射業界）では気象研究所がどのように位置づけられているか、気象研究所予算と外部資金をどのように組み合わせて研究を実施していくか、現業化のロードマップ等を明確にしていきたい。